PICK UP!

写真で見る本年度事業

町の財布の中身とは？

住宅建設事業（土木費）
14億4,681万円（平原団地ほか）

道路橋りょう新設改良事業（土木費）
6億4,406万9千円

子ども手当（民生費）
5億8,044万円

屋内運動場改築事業（教育費）
4億1,120万円（伊方小・弁城小）

防災行政無線設備整備工事（消防費）
1億5,000万円

※ 今後、国の政策により変更となることがあります。

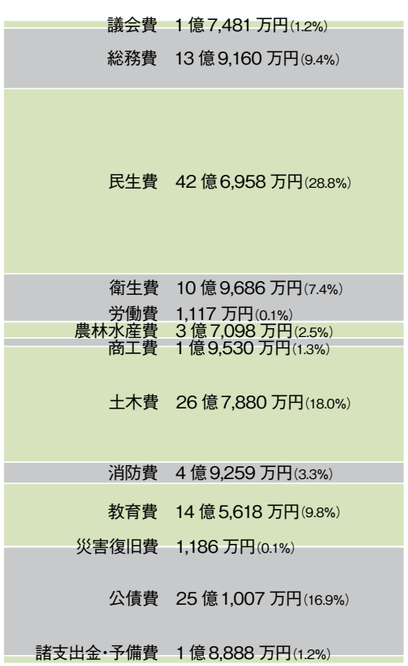
わが家の家計や自分の財布のように意識してほしい…
決して人ごとではなく、誰もがかかわる町の予算。
特に今は、将来を左右する大切な期間です。

維持重視型予算

町の予算を目的別に示したグラフからは、行政サービスの水準や特色を知ることができます。その割合から見ると、民生費と土木費が約47％を占めているのが分かりますが、民生費は住民の生活を守る経費が主で、土木費は維持補修を中心に、既存の道路や施設を快適に利用できるよう取り組まれる経費が大半となっています。予算書では、新たに設置される施設の経費ではなく、老朽化や利用上の整備が必要な建て替えや改修に対応する項目が並んでいます。一方、従来に比べて際立って増加した項目はありません。

このことから、本年度の予算は、行政サービスの維持と各分野の総合的な発展を考慮した「バランス重視の町政維持型予算」だといえます。

一般会計歳出【目的別グラフ】



（　）は構成比だよ！

未来託す正念場

今回、施政方針と予算から、町政の姿を見つめてみましたが、これらは、この町に住むみなさん一人ひとりにかかわるものばかり。予算書からは、福智町が誕生して以来、旧町から引き継いだ従来の施設の維持に多くの予算が必要なことが分かりましたし、現状の社会や課題、ライフスタイルに応じた新たな施策が求められていることも見えてきました。

財源の面では、市町村合併のメリットである「合併特例債」や、特定の市町村が活用できる「過疎対策事業債」という有利な債務（借金）が使える期間も残り5年となっています。しかし、その財源にも限りがあり、いかに有利とはいえ借金であることから、5年後以降の町の財政は、さらに厳しい運営を迫られることが予想されます。町の未来は、ここ5年で、どのようなまちづくりが実施され、将来の発展へとつなげることができるかに懸かっており、最小の経費で最大の効果を生み出す創意工夫が求められます。

町政は住民生活に密着し、町の財政危機は、そのまま住民生活にはね返ってくるもの。決して他人ごとではないはずです。まずは、わたしたち一人ひとりが施策や財政の現状を知って分析し、将来もたらされる効果と自分たちに跳ね返ってくる負担を、全町的な視野で意識する感覚が必要になります。この町の将来像を描きながら、何を削り、何を残し、何を創るのか… 町政と予算に向けたわたしたちの意識は、これから町が進むべき方向性を左右します。

福智町が今活用できる「有利な借金」とは？

地方債の中には、返済の一部を国が交付税として負担してくれる「交付税措置」のあるものがありますが、使える期間が限られています。残された期間で、これらの有利な財源を有効に活用していくことが求められています。

▶合併特例債

平成11～17年度末までに合併した自治体に、合併後10年間に限って認められる地方債。事業費の95％にあてることができ、返済額の7割を国が負担します。

▶過疎対策事業債

人口が減少している過疎地域の指定を受けた自治体が発行できる地方債。事業費の100％にあてることができ、返済額の7割を国が肩代わりします。

予防接種委託事業（衛生費）
6,200万円

イベント助成事業（商工費）
250万円

農村環境整備事業（農林水産費）
1億2,350万円

林地崩壊災害復旧事業（災害復旧費）
650万円

緊急雇用対策事業（総務費）
7,775万7千円

犬猫の避妊去勢手術費補助事業（衛生費）
29万2千円